

団体意見交換会開催記録

1 開催概要

開催日時：平成19年9月14日（金） 午後1：30～4：00

開催場所：パークアリーナ小牧 会議室A

参加者：21団体（21名）

策定研究委員会委員10名、事務局5名

コンサルタント（ランドブレイン株式会社）2名

議題：説明

- ・新しい総合計画策定の趣旨、策定スケジュール
- ・団体アンケート結果の概要報告

意見交換

- ・今後のまちづくりに向けた意見や提案

資料：団体意見交換会説明資料

第5次総合計画ダイジェスト版

アンケート用紙



2 開催記録（要旨）

1）企画課長あいさつ

本日はお忙しい中、新しい総合計画策定のための団体意見交換会にご出席くださいましてありがとうございます。7月に実施いたしました団体アンケートにつきましては、90団体（全178団体中）からご回答をいただきました。ありがとうございます。小牧市第6次総合計画策定に向けて、本年2月に実施した市民意向調査をはじめ、市民懇談会や市民まちづくり研究会、総合計画策定委員会などが本格的に始動したところでございます。新しい総合計画においては、市民協働を方針に掲げて策定を進めております。現場の皆さんの視点から見ればまだまだ課題が山積しているかと思われまます。そこで、本日は様々な分野でご活躍の皆様にお集まりいただいておりますので、それぞれの活動を広げる上での地域との連携や市民への情報発信、市民と行政が協働で進めるまちづくりにおける問題点などについてご意見をいただきたいと思ひます。また、多くの団体にご参加いただいておりますので、団体同士の意見交換、交流の場になれば幸いです。本日はよろしくお願ひいたします。

2）説明・報告事項

「新しい総合計画策定の趣旨、策定スケジュール」「団体アンケート結果の概要報告」について、企画課舟橋より説明。

3) 参加団体自己紹介

■2004 ひだまりの会…障害児をかかえる家族会です。地域で生き活きと生活するために、ボランティアさんの育成や地域ネットワークを作っていきたいと活動しています。

障害のある乳幼児の母親たちで2004年に立ち上げた障害児の家族会。元々は勉強会だったが、地域で生活していくためのボランティアさんを育てたり、お母さんたちの相談を受けたりしている。障害者にもやさしいまちになってほしいと思い参加した。

■こまきエコネット…みんなで楽しくエコライフ

6年前の環境政策課のエコ研究会がはじまりで、環境市民条例などを打ち出してきた団体。エコライフを実現するための実働部隊として立ち上げた。今年度は風呂敷とマイ箸の普及を行いたい。

■こまき市民活動ネットワーク…NPOのためのNPO

今年の4月にNPO法人化した。NPO同士が協働で様々な活動をするのをサポートするための団体。227の企業、団体、個人に参加していただいている。今年も10月の市民まつりのなかで「げんき村」というイベントを実施予定。

■こまき安全なまちづくり協議会…市内西部、南部、中部の地区を青色回転灯装備車で防犯活動を展開

防犯活動を行っている団体。平成15年に小牧市の犯罪件数伸び率が愛知県で最下位になって以来、有志で立ち上げた。自主防犯団体の支援も行っている。財政難、スタッフ不足が現在の課題である。

■久保山団地お助けマン…防犯パトロール（毎日朝と晩）清掃活動（アダプトプログラム・毎朝）自治会活動・地区3あい事業等支援

高齢化が進む中、平成16年度に防犯活動を含めた総合ボランティアとして発足。毎朝15～20名の方がごみ拾いに参加している。

■小牧ワイアンドット友好市民の会…米国ワイアンドット市民との交流をはじめ、在日外国人との交流と国際理解を深める仲間の集い

1963年、姉妹都市提携を結んだワイアンドット市との交流を図るためにできた団体。10名前後の若者を相互に派遣している。また毎週火曜日に英会話教室を開いている。秋の親睦会では妻籠、馬籠、伊勢神宮などを訪れ、日本の伝統を知ってもらう。スタッフも高齢化し、不足しているので、若い人たちにぜひ参加して欲しい。

■多気交流会…多気上・下地区の防犯パトロールとゴミ拾い

4年前に親睦団体として発足。今は地域での防犯パトロールやごみ拾いをボランティアで行っている。

■小牧災害ボランティアネットの会…コーディネーターの養成講座に参加下さい

災害が起きたときにボランティアの方々の活動をコーディネートするための団体。地震が起きた時のボランティアの手配や、地震への備え、発生時・発生後に気を付ける事など

の知識のPR活動。コーディネーター養成講座を毎年1月に行っている。

■小牧断酒会…酒害で困っている人への相談、アルコール依存症＝断酒会へ

愛知県にある27の断酒会で最も新しく出来た団体。アルコール依存者が依存を克服するための会。市の福祉課、保健所などへ資料を届けるなどPRを行っている。

■コマキeコミュニティネットワーク…市民1万人の人たちとパソコン習得

7年前、国のIT促進法に基づいた法令が愛知県にも導入され、パソコンを学ぶ活動を市民に展開しようとNPOを設立。行政と一体となってパソコン教室を実施してきたが、パソコンの使い方を教えるということだけでは限界にきている。これからは市民の方々と協働でパソコンを使った様々なまちづくり活動を一緒に行っていきたいと考えている。

■つみきの会…町中に子どもの笑顔と足音を

発足15年目のボランティア団体。市内のこども会や老人会などのイベントで、各会員の特技を活かした余興などのお手伝いをしている。子育て中のお母さんの支援なども行っている。

■こめこめ12…介護予防支援を

寝たきり予防のために、お年寄りの方に外出してもらい、どこかに集まって交流の時間を持ってもらうという活動を行っている。屋外実習を年に1回企画しているので、高齢者も利用しやすい屋根のある休憩施設など、屋外で活動しやすい場所があるとよいと思う。

■小牧歴史友の会…小牧（尾張）を中心とした郷土史を勉強する会

平成11年に生涯学習の講座で出会った者どうしが集まり発足した。郷土史を勉強するための会。他の尾張・三河地域へも訪れて、それらの歴史も学んでいる。小牧は他市に比べて歴史があまり知られておらず、PRが足りないのではないかと感じる。

■ほがらかさん…岩崎デイサービス・ふれあいセンターデイサービスのイベントのお手伝いが主な活動

5年前、家庭介護講座を修了した者どうしで立ち上げたグループ。デイサービスのお手伝いや施設の方との交流を行っている。お年寄りの方たちが自分の話を聞いてもらえる場所がない、またお年寄りの方がゆったり過ごせる場所がないので、そのような場所が必要だと感じている。

■アニマルリライアンス…ノラ猫をなくす活動、地域猫の管理

野良猫の避妊・去勢、保護を行っている。活動を続けていくには費用がかかるので、イベントなどで資金を得ながら、市民に正しい知識を身に付けてもらうよう活動している。行政にも活動を理解していただき、後押しをお願いしたい。

■NPO心技塾ネットワーク…人生の価値を高める。社会を変える。

5年前、企業で身に付けた技を何とか社会に活かそうという目的で発足した。これまでに培った技術を中小企業に提供するなどの活動を行っている。将来人口が減り、財政難になると思われる小牧市では、市民自らの技術で地域を支えていくことが必要だと考えている。

■めいきん生協コープ小牧ネットワーク…食の安全・安心を求めて学習会や子育てを支援
生協の活動として、環境、平和、子育てなどを行っているが、一般市民の方とも一緒に何か活動できればと思い、誰でも参加できる子育て支援活動や駅前広場でのイベントなどを行っている。

■米野さわやか会…小牧で一番きれいなまちを目指し、子どもたちと一緒に「まちかどの美化」に取り組んでいます

平成14年に、この地域を小牧で一番きれいな地域にしようと立ち上げた会である。平成16年からは小中学生と一緒にごみ拾い活動を行っている。小牧市全体がきれいなまちになるとよい。

■小牧市書道連盟…日本文化を大切に！子どもの頃から体験を！

小牧市内の幼児・小中高生までが所属する団体。小牧市の子どもは書道大会で表彰されることが多い。学校での書道の時間をもっと大切にもらうため、最近ボランティアで週1回学校へ教えに行っている。大人になっても日本文化を学び、発表できるような場が市内には少ないと感じる。

■(社)愛知建築士会小牧支部…会員の技術向上

活動内容は、メンバーの技術向上が主である。講習会、技術見学会などを行っている。市民に対しては、建築の無料相談を行っている。社団法人のため、一般市民に対する活動が今後一層求められるようになる。

■シルバーライフを考える会

定年後はボランティアで地域に貢献したいと思い、様々なボランティア活動を行ってきた。ボランティアの高齢化が進み、活動能力が落ちていることが課題である。

4) 意見交換

～多世代交流を通して市民への理解を～

■2004 ひだまりの会

- ・ 私たちの団体は、福祉系の学校の学生にボランティアで手伝ってもらってもらうことがある。現在、福祉を学べる大学は増えているが、卒業後は必ずしも福祉の道に進むとは限らず、介護の担い手はあまり増えていないのが現状である。
- ・ 各小学校には小学校3年生までを対象とした児童クラブがあり、希望すれば誰でも入れるが障害者は入れない。加えて現在小牧市には、障害児向けのデイサービスもなく、行くところがないのが現状である。
- ・ 親が付き添うという形で、子ども会などの地域活動には受け入れられつつある。小さい頃から障害児と健常者が一緒になった環境にすることで、障害に対する理解が早く身に付く。子ども同士に限らず、高齢者も含んだ多世代で、また自身の団体に留まらず様々な分野の他団体とも交流が出来ればと思う。

■小牧市書道連盟

- ・ 現在、小学校に書道を教えに行っているが、子どもたちにとって、学校の先生ではない人と触れ合うことが刺激になっていると思う。
- ・ 子どもはかかわる相手によって変わっていく。障害を持っているか否かに関わらず、みんなが同じ場に一緒に居るのが普通という環境作りが求められていると思う。
- ・ 家庭でも同様に、多世代で同居している家族の子どもたちは、思いやりの心や考え方が違う気がする。
- ・ 世代を超え、障害を持っているか否かに関わらず、一緒に暮らしていけるまちづくりが必要ではないか。

■シルバーライフを考える会

- ・ 精神障害者への支援に携わって10年近くになるが、障害を持った子を育てるには辛抱強くやるのが大事である。ただ、一人で頑張るのではなく、仲間を作って互いにサポートしあいながらやるのが一番である。

■つみきの会

- ・ 発足当初と違い多少活動趣旨が変わってきているが発足15年目でもあり会員数は多い。
- ・ 市内のイベントに参加するときや人手が必要なときに、会員に声を掛けるとすぐ集まってくれる。当日だけのボランティアも多数いる。
- ・ 当日ボランティアが多いため、ボランティア保険の手続きなどが煩雑で行き届かないこともある。

■アニマルリライアンス

- ・ 自分の意見を一人でも多くに訴え、意見を分かち合える人を一人でも多く見つけることが必要。活動の発端は、「住みやすいまちにしたい」という気持ち。

～団体間の連携で安全・安心なまちに～

■(社)愛知建築士会小牧支部

- ・ 無料での耐震診断を行っている。先日の大地震で診断件数が急増した。しかし実際に補強を行うのは1割もない。

■小牧災害ボランティアネットの会

- ・ 「建築士会」や消防などと協力して減災活動を行っている。

■小牧ワイアンドット友好市民の会

- ・ 活動のメインは通訳ボランティアである。
- ・ 災害時の外国人に対する対応で何か支援が可能だと思うが、実際、自分自身(家庭)のことで手一杯になるであろう。そのため小牧市内に留まらず、近隣市町も含め、お互いに助け合えるようなネットワークづくりが必要であろう。
- ・ 小牧在住の外国人の大半は外国人のみの家庭で日本語もあまりできないであろう。言葉は違うが、気持ちの問題である。

■久保山団地お助けマン

- ・ 米野さわやか会との交流はある。
- ・ どの団体も後継者問題がある。久保山団地も高齢化が進み、防犯活動をしている人も高齢者ばかりであり、みんな揃って活動をするには難しい現状がある。そのため、朝9時、夜8時に、外に出れる人は出てもらい、健康のため、お喋りするためなどの軽い気持ちで団地内での日頃のコミュニケーションづくりを兼ねた防犯活動に努めている。
- ・ そのような日頃の活動が、地域内での様々な活動につながる。災害が起きたときにも役に立つ。

■シルバーライフを考える会

- ・ 高齢者の一人暮らしの家に手すりを付けて回っている。費用は実費のみで、これまでに60本程支援を行ってきた。市の制度では20万円まで補助となっており、行政とボランティアには差がある。

～活動の継続や発展には情報共有が必要～

■コマキeコミュニティネットワーク

- ・ ボランティア活動を行う上で後継者の問題やお金の問題は共通である。今回は個々の問題が多く出ているが、せっきく集まったのだから全体の問題をみんなで考えていくべきではないか。
- ・ 他団体と連携することが、活動を継続する上で重要ではないか。

■米野さわやか会

- ・ こまき市民活動ネットワークの運営に関わっているが、これからは分野ごとに交流会を持ち、同じ分野の者どうしで悩みや事例の情報交換をすることで、地域を越えた交流が始まるのではないか。
- ・ 情報の共有の場が必要である。

■つみきの会

- ・ 社協でイベントがあったときなどは出来るだけ参加するようにしている。今後も出来る限り協力したい。今は、障害者をサポートする法整備なども進んでいるので良い方向に向かっていると思う。
- ・ 小牧市民活動ネットワークさんに申し込めば、他団体の内容なども紹介していただけるのか。お互い協力できればいいと思う。
- ・ 社協の窓口のようなものが必要である。

■米野さわやか会

- ・ こまき市民活動支援ネットワークは設立してまだ年数がたっていないが、本来なら市民活動ネットワークが、市内のボランティア団体の活動を把握すべきである。
- ・ 現在市内のボランティア団体を調査して、ガイドブックの作成に着手している。それが出来れば、団体間のつながりが広がるのではないか。また新たな団体も生まれてくるの

ではないか。

- ・ 今後もこのような意見交換会を、こまき市民活動ネットワークの中でやっていかなくてはならない。

■つみきの会

- ・ 小牧市民活動ネットワークへ参加するには会費がかかるので断念した。

■米野さわやか会

- ・ 郵送料などの経費は必要。事務処理経費と考えて欲しい。

■こめこめ12

- ・ 生涯学習課、社協などいろいろ登録をしている。ボランティアで会費が生じるのはどうかと思う。市から支援していただけないのか。
- ・ 私たちの団体は、ボランティア側と参加者側の垣根を取り払って、わきあいあいとしながら長続きできればよい。それだけの願いでやっている。

■めいきん生協コープ小牧ネットワーク

- ・ 団体でも個人でも多くの方がネットワークに参加している。
- ・ また共同で様々な活動もやっていくので協力してほしい。
- ・ 若い人は行事や地域の情報を全く知らないことがある。情報を共有する方法を考える必要がある。
- ・ 多くの人の考えを掘り起すために、街中でのアンケートなどを行い、いろんな要望を聞いて回ることも必要ではないかと思っている。

■こまきエコネット

- ・ 市議会では「市民主体でやって欲しい」という声がよく聞かれる。
- ・ 個々の団体はよくがんばっているが、それらをコーディネートする中間支援組織が今一番必要ではないか。

■米野さわやか会

- ・ 活動のための財源カットは重要な問題。私のところでもカットしているが、フリーマーケットなどで資金を得ている。「自らの資金でやる」ということも大切。

5) 企画課長あいさつ

今回、新総合計画策定のための団体意見交換会ということで開催させていただきましたが、小牧市では平成17年市民活動推進条例というものをつくっており、公民館の4階に市民活動センターを設置して小牧市民活動ネットワークさんに運営を委託しています。十分活用していただければと思います。

今日は長い時間本当にありがとうございました。

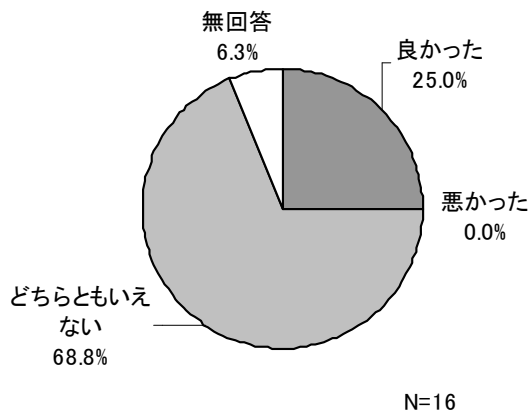
3 団体意見交換会に関するアンケート結果

■ アンケート回収数

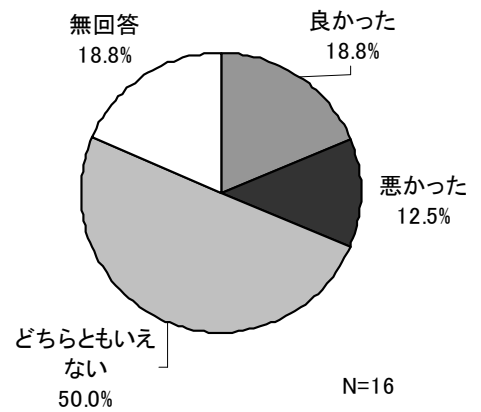
回収数 16 票 (回収率 76%)

■ 意見交換会について

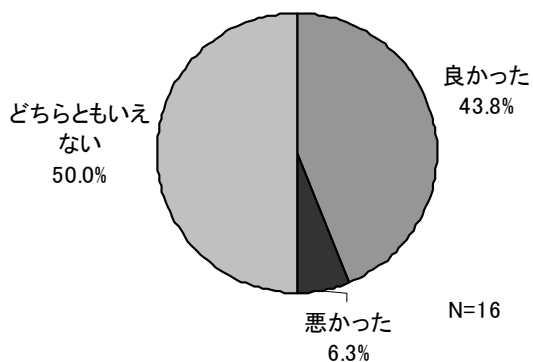
<内容>



<進め方>

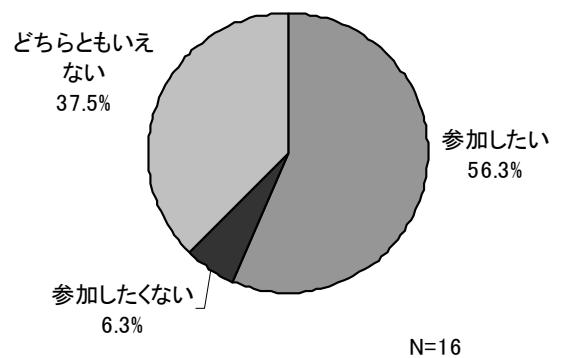


<時間設定>



<今後の参加意向>

今後このような機会があれば参加したいか



■小牧のまちづくりについて（自由意見）

- 各団体が色々な活動をしていることがわかった。初めての顔合わせなので、「小牧のまちづくり」とはかなり距離があり、噛み合うにはまだ時間と歩みよりが必要と思う。
- ボランティアにはそれなりの事情がある。①多くのボランティアがいるが、極めて高齢化が進み、現有のメンバーでは大きな期待は出来ないと思う。②50歳以下のボランティアはめったにいない。これは難しい問題で、現在では解決の見通しは少ない。
- 市民は市民で活動ではなく、市民も参加しているけれど、行政もきちんとかかわってくれているという形でない、うまくつながっていかない。個人情報保護法は使われ方がおかしいと思います。
- 市民活動団体の紹介、PRに時間を費やしていただき、一部の方からのご意見もあり、各団体個々の問題解決に向っての参考になった。協働によるまちづくりについて基本的には、「きめ細やかな対応が求められる事業」「多くの人の参加が求められる事業」「高い専門性が求められる事業」などが協働に適した事業ではないかと思う。取り組むきっかけが出来るテーマを決め、方向性をつかめる会議にしてほしかった。
- まちづくりに対しての意見交換でお互いに意見がたくさん出されたが、よくわからなかった。これからどのようなまちづくりができていくのか、現在の話し合いではわからないのではないのでしょうか。スポーツ、文化が車の両輪で動いて行く様をお願いしたい。まちづくりは人づくり！子どもたちの教育に力を注いでいただきたい。
- 参加者の期待内容と実施内容にギャップがあったように感じました。今回の会合は参加者の立場が異なりすぎていて、共有化が難しいと思いました。
- このような会を、市民主体で企画しなくてはと痛感しました。今回の意見交換会の意図は何でしょうか。同じ地域に住み、それぞれの団体さんの活動報告を聞くのは貴重な場だと思いますが、この意見交換会から発展、つながるような展開は期待できないと感じました。市民団体の活動を盛り上げて“まちづくり”をしていくには、市職員の意識改革とコーディネート力の向上をまずは身につけていただきたいと思います。それが「協働」のスタートラインだと思います。
- ボランティア団体の横の繋がりを密にし、内容のあるボランティア活動を活発にしたい。
- 各団体の紹介は書面にて行い、本題の意見交換を中心に実施してほしかった。今後の内容を期待して出席したが、残念であった。議事録があれば送ってください。
- 紹介が長すぎました。いろいろな活動をしている方の話が聞けて良かった。いろんな方の活動をいかに自分達の活動に取り入れていくかを考えていきたい。
- 何かつながるものがないと思われる。時間は2時間が限度か。
- まちづくりに関係する団体が少ないため残念でした。
- 初体験の事・話・出合いが多く、大変勉強になりました。

- まだまだこれからですね。10 回ほど意見交換会を重ねれば各団体の問題点も良くなるのではないかと。
- 住みよい生活環境づくりの身近な一つとして、ノラ猫駆除を考えてほしい。
- 各ボランティア、NPO 団体等の横の情報交換、ネットワーク作りを行い、各グループの活発化を図りたい。
- 第 5 次総合計画の統括をぜひ行ってもらいたい。「P→D→C→P」これをやることによって第 6 次の中味がしっかりしてくる。
- 計画とは計って画く。従って、2050 年の小牧の人口予測は、税収予測は。（愛知県では、現在 733 万人を 600 万人と予測されている。）
- 障害者（児）福祉を中心にまちづくりに関わりたい。重度の方から手帳判定外の軽度の方までみえる団体なので、地域生活だけでなく、障害への理解をふかめて頂くための啓発活動などや、災害時の障害者（児）の対応など幅広く、意見やお手伝い、協働参画させて頂きたい。ボランティア団体はたくさんあるが、高齢化していて、若い障害をお持ちの方たちに対応できる方がいない。ガイドヘルパーは自立支援法下では生活を支えるほど活用できるものではなく、「家族力」だけに頼っているのが現状です。財政がこれからもきびしくなるのが予測される中で、行政のみに頼るのではなく、地域、小牧の中で障害者（児）に対する正しい知識と理解をもって頂き、支えあい、共に生きる市になっていくまちづくりをして頂きたいし、していきたいです。
- 小牧山史跡公園や四季の森、アリーナ等にもっとお年寄りが気軽に集まったりできる場所がほしいと思います。史跡公園の芝生の公園の中に、数寄屋風の屋根のあるベンチがあれば良いと思います。